様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年　４月　１日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）

研究期間：2007～2008

課題番号：19810013

研究課題名（和文）

トランスナショナル・アクターとしての中国朝鮮族の研究

研究課題名（英文）

Korean　Chinese as Transnational actor

研究代表者

宮島　美花（MIYAJIMA　MIKA）

香川大学・経済学部・准教授

研究者番号：10452666

研究成果の概要：

中国朝鮮族の事例を取り上げながら、従来、特定国内の少数民族問題としてのみとらえられてきたエスニック・マイノリティが、1990 年代以降、民族ネットワークを用いてトランスナショナルな活動を活発化させている現象に注目し、今日の彼らをトランスナショナル・アクターととらえ、その活動に新たな国際的意味を与えようと試みる。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	1,010,000	0	1,010,000
２００８年度	1,240,000	372,000	1,612,000
年度			
年度			
年度			
総　計	2,250,000	372,000	2,622,000

研究分野：社会科学、地域研究（北東アジア）

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：地域研究、北東アジア、国際関係論、中国朝鮮族、民族ネットワーク、アクター、トランスナショナル

１．研究開始当初の背景

中国朝鮮族に関する研究アプローチは、ナショナル・アプローチ（朝・漢民族関係を扱う）、エスニック・アプローチ（民族性とその

保持の問題を扱う)、トランスナショナル・アプローチ（彼らの民族ネットワークと国際活動に注目する）に分類される。
(1)これまで華僑・華人ネットワークに代表される民族ネットワーク研究は、一般のネットワーク研究には、ネットワークと生得的な個人の属性との関連についての説明がないとして、民族ネットワークの実態について独自の研究を展開してきた。しかし、国際関係論におけるエスニック研究の課題を模索したスタック（J.Stack）によると、例えばトランスナショナルな勢力である多国籍企業が手を組むのは、また違った様相をもつトランスナショナルな勢力である華僑・華人というエスニック集団である。民族ネットワーク内部における紐帯の解明に加えて、跨境的な民族ネットワークは、異なる民族と民族、国家と国家をつなぐ国際的意味を有する点に注目し、民族ネットワークの新たな定義、国家間関係や地域構造のなかに持つ機能、役割などを明らかにしたい。
(2)また、国際場裏で活動する主体（アクター）は多様化していっているが、国際関係論の研究テーマの細分化に伴い、研究者間でもアクター・イメージは共有されていない。学問としての国際関係論は、基本的用語をめぐるコンセンサスが揺らいでいる現状にあって、本研究が、実証研究を通じて、朝鮮族の事例から跨境民族をトランスナショナル・アクターととらえようと取り組むことは、アクター再定義をめぐる一般的・理論的考察に貢献し得ると考える。

２．研究の目的
(1)中国朝鮮族の事例から、従来、特定国内の少数民族問題としてのみとらえられてきた跨境民族が、1990 年代以降、民族ネットワークを用いてトランスナショナルな活動を活発化させている現象に注目し、今日の彼らをトランスナショナル・アクターととらえ、その活動に新たな国際的意味を与えようと試みる。
(2)朝鮮族の民族ネットワークを用いたトランスナショナルな活動についての実証研究を通じて、国境を越えて移動し、国境を跨いだ生活圏を形成するようになったエスニック・マイノリティの民族ネットワークの機能や役割、各国および地域に与える影響などを検討する。また、北東アジアにおける、朝鮮族の跨境生活圏の空間的な伸縮性、移動内容の変化、移動後の生活実態から、アジアの地域構造の一側面を明らかにしようと試みる。

３．研究の方法
本研究は、理論研究と実証的な事例研究、文献調査とフィールドワークとを取り入れて実施された。平成 19 年度には、ネットワーク論および民族ネットワークに関する先行研究の整理、アクターの再定義やアクターに代わる概念を提出しようと試みる先行研究の整理、「ヒトの国際移動」などの研究テーマにおける理論的インプリケーションの検討を行った。平成 20 年度には、前年度研究を踏まえて、中国山東省青島、吉林省延辺朝鮮族自治州におけるフィールドワーク、中国および日本で開催された朝鮮族関連のシンポジウムや学会等において最新の情報収集および研究者との意見交換などを行い、朝鮮族の民族ネットワークを用いたトランスナショナルな活動の実態について実証研究を試みた。例えば、2008 年 10 月に①中国山東省青島で開かれた「第 13 回中国朝鮮族発展学術研討会」、②中国吉林省延辺朝鮮族自治州・延辺大学と韓国高等教育財団が提携し、延辺大学で開かれた「図們江学術フォーラム 2008」に参加した。日本国内では、例えば、大阪経済法科大学東京麻布台セミナーハウスで開催された「朝鮮族研究学会 2008 年度総会及び研究フォーラム」において、李任官（岡山大学大学院博士前期課程）報告「国際人口移動に伴う地域の変容—中国吉林省龍井市を事例として」に対するコメンテーターを担当した。

４．研究成果
(1) 統計データやインタビュー等を用いて、朝鮮族の「過流動」ないし「過剰」な移動の状況が 1990 年代から今日も継続していること、朝鮮族の国境を跨いだ生活（子女の養育を含む)、送り出し地および移動先での諸問題などを観察し、彼らの跨境生活圏の内実を明らかにした。
延辺の人口は、1990 年代後半から州内の朝鮮族人口は減少に転じ、今日までその現象傾向が続いている（図表１）。統計に表れない流出を勘案すれば、その減少幅はより大きいものと思われる。

図表１　延辺の人口（単位：人）

	1995 年	2000 年	2006 年
総人口	2175888	2184502	2177966
漢族	1252471	1278824	1299230
朝鮮族	859956	842035	811761

出所：『延辺統計年鑑 2007』

とりわけ 05 年の韓国の登録外国人のうち、朝鮮族は 14 万人を超えており、2000 年以降、朝鮮族は韓国最大の外国籍集団となっている

（図表２）。

図表２　韓国の国籍別登録外国人（単位：人）

	1995 年	2000 年	2005 年
総計	110028	210249	485144
朝鮮族	7367	32443	146338
中国（朝鮮族以外）	11825	26541	70654
ベトナム	5663	15624	35514
アメリカ	22214	22778	23476
インドネシア	3434	16700	22572
台湾	23265	23026	22178
タイ	478	3240	21398

出所：韓国法務部『出入国管理統計年報』各年度版

在韓朝鮮族 14 万超（05 年）のうち、韓国国民の配偶者資格の朝鮮族女性は 2 万 7,329 人で、国際婚姻を理由とする女性の移動がひとつの特徴となっている（図表３）。

図表３　国籍・在留資格別登録外国人（韓国 2005 年）（単位：人）

	総計			国民配偶者 (F-2-1)
朝鮮族	146338	男	63906	3273
		女	82432	27329
中国（朝鮮族以外）	70654	男	37520	1394
		女	33134	13264
ベトナム	35514	男	23081	37
		女	12433	7412
フィリピン	30649	男	18728	118
		女	11921	3747

出所：韓国法務部出入国管理局『出入国管理統計年報 2005 年度』306-311 頁。

韓国の外国人雇用許可制は、一般外国人向けの一般雇用許可制と在外コリアン向けの特例雇用許可制からなっている。特例雇用許可制による在外コリアン労働者とは、実質的に朝鮮族労働者のことである（07 年 1 月に全 8 万 4,336 人のうち朝鮮族 7 万 9,306 人）である。図表４をみると、一般雇用許可制による一般外国人労働者の場合、ほとんどが製造業に従事しており、特例雇用許可制による在外コリアン労働者（つまり朝鮮族労働者）は、主に建築業とサービス業に従事している。朝鮮族女性には家事・介護を含むサービス業を、朝鮮族男性には建築業を、その他の低熟練力の需要を一般外国人に担わせているというのがこの制度の実態であると考えらえる。

図表４　外国人雇用許可制現況（韓国）（単位：人）

		2004 年	2005 年	2006 年	総計
一般雇用許可制	小計	3167	31659	28976	65429
	製造業	3124	31115	28182	63999
特例雇用許可制	小計	3928	28814	50223	84336
	建設業	2514	18072	20804	41390
	サービス業	1414	10742	19422	32400

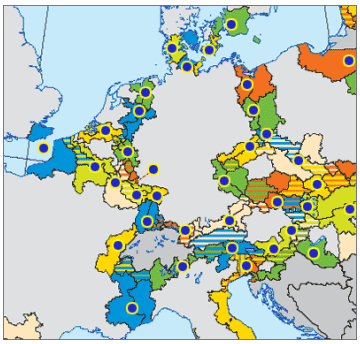
出所：韓国労働部『韓国の労働統計 2007』61 頁。

(2) 実践概念と分析概念とを区別して論じる視点から、民族的同質性に基づく「ネットワーク」と「コネクション」を区別して説明付けようと試みた。

(3) 欧州におけるＥＵやＥＵサブリージョンのような国境を跨いだ生活空間を支える制度が不在である東アジア・北東アジアにおける、朝鮮族の跨境生活圏の空間的な伸縮性、移動内容の変化、移動後の生活実態から、アジアの地域構造の一側面を明らかにしようと試みた。

欧州では、国境付近の市町村のような基礎的自治体同士が、ボーダー・コミュニティの形成と発展、共通の問題の解決などを目的にユーロリージョンを結成し、市民社会密着型のローカルな越境協力を行ってきた。ユーロリージョンの活動に触発され、国境を越える協力に政策関心を寄せ始めたＥＣは、九〇年、下位地域における越境地域協力を直接資金援助する制度として INTERREG プログラムを策定した。INTERREG プログラムのなかでも、ユーロリージョンの越境地域協力には、INTERREGⅢプログラム全体の総予算の 66％が配分されており、ＥＵという大きな空間を末端で下支えしているのは、人々にとって最も身近なミクロ・リージョナルな国境を跨いだ生活空間であることを意味しているように思われる（図表５）。

図表５　INTERREGⅢＡ:Cross-border cooperation



出所：
http://ec.europa.eu/regional_policy/interreg3/abc/voleta_en.htm

図表６　延辺における中朝間の非合法越境状況（単位:人）

項目	1951 年		1961 年	
	中国公民	朝鮮公民	中国公民	朝鮮公民
合計	1558	14889	11135	1235
畏罪逃避(処罰を恐れての逃避)	16	576	2	2
越境作案（越境犯罪行為）	498	233	28	5
密貿易	590	1892	1435	162
親戚友人訪問	454	1921	1395	333
求職	—	638	7893	731
越境遊覧	—	9509	297	2
治療	—	120	85	—
誤越国境	—	—	—	—
其他原因	—	—	—	—

出所:『延辺朝鮮族自治州志』上巻、中華書局、1996 年、548 頁。（中国語文）

もともと河ひとつ隔てて隣接しあう朝鮮族集住地区と朝鮮半島北部には、歴史的伝統的に国境を跨いだ生活空間が存在し、朝鮮族はこの跨境生活圏に暮らしてきた。延辺における中朝間の非合法越境状況（中国側統計）を示した図表６からは、新中国建国（49 年）後も、「越境遊覧」「親戚友人訪問」「求職」「治療」等の理由で日常的な往来が行われていたことが見てとれる。また、ここには朝鮮戦争により延辺へ避難した避難民（中国側統計で 53 年までに１万 1,728 人）は含まれていない。人々は、中朝国境を跨いで日常生活を営み、その時々の苦境にあっては、国境を越えて避難とその受け入れを相互に繰り返してきた。

1992 年以降、朝鮮族は「過流動」の時代を迎えた。彼らの移動と民族ネットワーク形成は、韓日ロを中心にとりわけ北東アジアに顕在化している。歴史的伝統的な中朝跨境生活圏をミクロリージョナルなボーダー・コミュニティと考えると、今日の朝鮮族の跨境生活圏は、そのミクロリージョナルなボーダー・コミュニティの境界から大きくはみ出し、北東アジアの広い範囲に拡大していっている。

しかし、東アジアには、ＥＵで展開されているようなマクロ、サブ、ミクロ・リージョナルな移動・滞在のガバナンスが不在で、朝鮮族の跨境生活圏は、それを支えると同時に規制を与える制度がない。その分、その広がりの伸縮性は極めて高く、彼らは不法就労など人権に関わる諸問題も引き起こしもしながら拡張を遂げてきた。渡航先国家ごとに、今現在、どのようなビザで移動可能か、そのときそのときの政策に反応し―例えば朝鮮族の渡韓制限が強化された翌年から、韓国へ嫁入りする朝鮮族の人数が増えるなど―彼らの跨境生活圏の広がりの中での移動内容も変化が激しい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計３件）

①宮島美花「エスニック・トランスナショナル・アクター再考（３・終）―朝鮮族のアイデンティティ、コネクション、民族ネットワーク―」，『香川大学経済論叢』，第 80 巻第 4 号、111-133 頁、2008 年 3 月、査読無。
②宮島美花「エスニック・トランスナショナル・アクター再考（２）―伝統的な中朝跨境生活圏の今日―」，『香川大学経済論叢』，第 80 巻第 3 号、145-192 頁、2007 年 12 月、査読無。
③宮島美花「エスニック・トランスナショナル・アクター再考（１）―朝鮮族の新たな跨境生活圏―」，『香川大学経済論叢』，第 80 巻第 2 号、103-133 頁、2007 年 9 月、査読無。

６．研究組織
(1)研究代表者

宮島　美花（MIYAJIMA　MIKA）
香川大学・経済学部・准教授
研究者番号：10452666